

○ 本校の概要

学校規模：児童数467名 学級数：18学級（内特別支援学級3学級） 教員数25名 講師・介添員等14名 「池二小の合言葉」いっしょに学ぶ池二の子 けんこうな心と体池二の子 にこにこあいさつ池二の子
本年度の主な取組
①校内研究「基礎基本を身に付け、主体的に学習に取り組む児童の育成 ～授業のUD化を通して～」授業をデザインする際のUD化の4つの手立てを意識した授業を行う。
②道徳教育授業地区公開講座（5月11日）学校公開中、全校級で特別の教科道徳で授業を行い、授業後に前全国小学校道徳教育研究会会長にご講演いただく。演題は「児童の自尊感情を育てる。」
③体育・健康教育授業地区公開講座（10/18・19）：学校公開中、全校級で体育・保健・食育の授業を行い、授業後に大田区教育委員会統括指導主事よりご講演いただく。また、1年を通して食育の授業を全校級で栄養士と連携して行う。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄
						コメント
ブランド生1きる未来子供社の会育を創造的に	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きている力等、これからの社会の変化にかなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	教員に対するアンケートで「これからの社会に変化に対応する子供を育成するために、コミュニケーション能力、情報活用能力が向上している」との回答の割合	4：9 9 0%以上	・外国語活動はALTとの授業を行い、ゲームをしたりICTを活用したりしながら、英語に親しみをたせるとともに、コミュニケーション能力を高めることを重視した授業を行った。 ・ICTの活用においては、学年当初より40台、秋にはさらに40台の児童用タブレットが配備され、調べ学習に活用されている。また、教員向けにタブレットの活用法、プログラミング授業のための研修を年間4回行った。研修以外にも進修教員に有効な使用法を聞き、実践している教員も多い。 ・一校一取り組みでは、長縄大会、マラソン、短縄跳びなどの取り組みを行った。長縄大会では、各クラスで目標値を設定して、それを目指して取り組むことにより苦手意識をもつ児童も励まされながら課題達成に向けて努力する姿が見られた。 ・授業のUD化については、校内研究で取り上げ、環境面の改善を図ると共に、年間7回講師の先生をお招きした研究授業を行い、研究・研修を重ねている。	○先生方がより分かりやすい授業の実現や子供たちの学習意欲を高めたいという思いで積極的にICTを活用し、児童の学習意欲や集中度がアップし学習効果が向上していることは評価している。 ○これからもより成果が上がるように努めていただきたい。 ○しっかりとICTを活用した取り組みができていられると思います。 ○ICTの活用はとても大事だと思います。期待しています。また、外国語はとても重要なファクターになると思います。 ○エラーニングやダイバーシティにおけるディベート力を身に付けてくれる児童が増えていると思われる。（単純に会話ができる。）
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	情報活用能力が向上している	3：8 8 0%以上		
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。		2：6 6 0%以上		
		校内研究のテーマである授業のユニバーサルデザイン化（誰もがわかる授業）を意識した授業を実施する。		1：6 6 0%未満		
ブランド2学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	保護者からのアンケート結果により、「教師は学力を身に付けさせるために指導の工夫をしている」との回答の割合。	4：9 9 0%以上	・朝学習（ベーシックドリル・ステップ学習）の充実に、基礎学力の定着、つまずきの発見を行った。また、学期の終わりに学習カルテを用いて学習の振り返りを行った。これをもとに夏には保護者面談を行い、児童の取り組み課題について保護者と確認を行った。 ・4・5・6年生を対象として算数力アップ教室（放課後算数補習）を毎週行った。6年は2学期まで継続とし、3学期からは代わりに3年が行った。基礎学力の定着、特に計算力の向上が図られた。 ・土曜補習教室は土曜授業の日に合わせて年間6回実施した。複数の教員で指導に当たることにより、児童の学力に合わせたきめ細かい指導をすることができた。 ・池にゃんファイル（読書記録ファイル）に読んだ本を記録している。学年ごとではなく6年間を通じて記録を取りためていくので、読んだ本が増えるうれしさとともに読む習慣が身に付いた。	○子供たちの確かな学力を向上させるためには、子供一人一人の理解や習熟の程度に応じた繰り返しの指導や課題に応じた指導など細かな指導が大切です。朝学習、算数力アップ教室、土曜補習教室などの取り組みは素晴らしい。 ○これからもより個々の児童にあった指導に努めていただきたい。 ○読書賞等、池二小独自の取り組みが評価できると思います。 ○学力アップは池二の評価に直結するので先生方の努力を期待しています。 ○都平均を常に上回る池二小であってほしい。その取り組みはやっていただいていると思う。 ○全般的にパーセントが80%、90%は、数字的には高そうですが、20%、10%の人が課題についていけないのは？100人のうちの20人、10人が理解不足は多いような気が致します。我々もできることは協力を惜しみませんので%の数字が上がるように池二の特色を出してください。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。		3：8 8 0%以上		
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。		2：6 6 0%以上		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。		1：6 6 0%未満		
		学習意欲、学習効果を高めるために、学校図書館（よみもののへや、調べもののへや）の活用や読書学習司書と連携した授業を学期に1回以上行う。				
ブランド3豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	保護者からのアンケートの結果より「我が子はあいさつするなど、学校や社会のきまりを守っている」との回答の割合。	4：9 9 0%以上	・「ハッピースマイルプロジェクト（朝のさわやかあいさつ隊）を全校児童による輪番で取り組んだ。挨拶習慣の定着を図ることができた。 ・道徳授業地区公開講座においては全校級で道徳科の授業を公開した。前全国小学校道徳教育研究会会長を講師にお招きして、地域・保護者に向けた講演をしていただいた。参加者は昨年の約3.7倍と大幅に増加し、好評であった。 ・メンタルヘルスチェックの結果から気になる児童には担任が個別に面談を行った。また、5年生はスクールカウンセラーと全員面接を行い、困ったことや悩みを打ち明けやすい人間関係作りをしている。その後スクールカウンセラーの元を訪れる児童もいて、問題を早めに把握することができた。日頃より児童が抱える問題に対し、児童本人や保護者との話し合いをもち、問題の把握に努め、組織的にかかわって解決に向けて取り組んでいる。	○豊かな心の育成の取り組みは、学校の方針に基づき先生方、関係者が一体となって取り組み、成果をあげている。 ○学校教育だけで指導目的が達成できるとは思わないが頑張っていたきたい。 ○児童が明るくしっかりとあいさつができており、安心した学校生活が送れていると思います。 ○心の健康は大事です。日本の教育の良さを世界に発信したいと思います。 ○池二小の児童に一番欠けている項目であると思う。保護者も巻き込んでもっとご努力いただければ道徳心もはぐくむことができるのではないかなと思う。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。		3：8 8 0%以上		
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。		2：6 6 0%以上		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。		1：6 6 0%未満		
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。				
ブランド4体力増進の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	保護者からのアンケート結果により「我が子は体力向上・健康増進について取り組んでいる」との回答の割合。	4：9 9 0%以上	・体力テストの結果分析から、児童の瞬発力を高める取り組みに重点を置き、授業の準備運動の中で跳躍力や瞬発力を伸ばす運動を取り入れた。 ・食育については、本校栄養士が一年を通して全校級で食育の授業を行った。食事の大切さを考えさせ今後の生活の中で生きて働く知識にしていくことができた。 ・体育・健康教育授業地区公開講座では、全校級で体育・保健の授業を実施、教育委員会統括指導主事を講師にお招きして講演を行った。講演後のアンケートではとてもためになったとの意見が多く聞かれた。 ・また、小学生駅伝大会では、朝練習・放課後練習を重ね自信をもって大会に挑むことができた。	○子供が生涯にわたって健康な生活を送るためには、規則正しい生活習慣を身に付けるとともに健康教育を基盤した一人一人の体力づくりが大切です。そのための具体的な取り組みを先生方で丁寧に実践していました。 ○子供たちの外遊びが少ないのが影響しているのではないかと思います。 ○縄跳びや昼休みを使ったランニング等基礎体力向上に向けた取り組みがしっかりとできています。 ○生活習慣の向上は学力にも影響があると思います。 ○体育面は徳育と同様大事なので頑張ってください。 ○校庭開放利用率の最も低い池二だったので、地域も利用しながら児童が駆けまわれる工夫が必要ではないか。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。		3：8 8 0%以上		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。		2：6 6 0%以上		
		新体力テストの結果を自己分析させ、自己の体力向上に意識をもたせながら、授業に臨ませる。課題のある種目は、授業だけでなく、家庭学習の協力も得て実施し、再テストする。		1：6 6 0%未満		
ブランド5魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	教員のアンケート結果より「教育環境の向上に努めた結果、児童の学習意欲が向上している」との回答の割合。	4：9 9 0%以上	・主任教諭が中心となって初任～4年次までの教員のOJTを毎月行っている。講話以外にも、大きな行事に向けての準備の進め方を解説したり研究授業の事前模擬授業を実施したりするなど、実践的な内容で、指導力の向上に効果을上げている。 ・全教員が、今年度区内で開催される研究発表会のいずれかに参加した。また、各教科主任が東京都内の指導教諭が行う公開授業を参観して夕会などで報告を行い、授業力の向上を図ることができた。 ・特別支援校内委員会を定例で行うだけでなく、必要に応じて臨時のケース会議を開催した。情報の共有を行い、組織的な対応をすることができた。 ・校内研究会は、国語、算数、体育の3つの分科会に分かれて、全学年・5組の計7回の授業研究を行った。授業研究に当たらなかった学級では、事前・事後の授業を受け持ち、参観・協議を行った。	○魅力ある学校づくりの基本になるものは「よくわかる授業づくり」と考える。そのために、校内研究や主任を中心とする実践的な内容の学び合いは、先生方の指導力向上や授業改善に効果的である。 ○評価を生かせるようこれからもお願いしたい。 ○今後もしっかりとした指導力向上を目指していただきたいと思います。 ○学校側の取り組み状況が学校に伝わっていない気がします。家庭への発信を積極的に行った方が良いと思います。 ○安全安心な学校生活の高評価は良いですね。継続されると良い。 ○先生方には大変と思われますが、グループディスカッション形式が増えていることはいいと思います。しいては、会話を通じての安全確保が可能だと思う。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。		3：8 8 0%以上		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。		2：6 6 0%以上		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。		1：6 6 0%未満		
		ユニバーサルデザインの視点に沿った教室環境を整える。				
ブランド6学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	保護者からのアンケート結果より、「我が子は家庭で家庭学習やタブレット学習をやっている」との回答の割合。	4：9 9 0%以上	・ホームページへのアップが前年度より簡単になったため、各学年から、積極的に公開が見られるようになった。 ・児童が自主的に家庭学習に取り組むことができるように、週末の宿題は児童自身が課題を考えて行う「セレクト学習」に取り組ませた。家庭との連携を図りながら自主学習を進め、家庭学習の習慣化を図ることができた。	○勉強は「本当に分かった」を積み重ねて、基礎学力を付けることができると思う。子供は勉強が分かると勉強が好きになり、逆に一度つまずくと勉強が苦手になり嫌いになってしまう。家庭学習スタンダードに基づき、家庭で毎日繰り返して勉強し、「本当に分かった」を一つ一つ積み重ねてほしい。 ○役割を担えるよう努めていただきたい。 ○児童が自主的に考える「セレクト学習」は、とても評価できると思います。 ○子供の様子からセレクト学習は定着していると判断します。 ○支援地域本部との連携を促進できればと思います。 ○OPTA、おやじの会、町会その他地域の皆様とますます関係が深くなるよう祈念します。 ○池二小の地域は卒業生や関係者も多いのもっともキャリア教育の学習も増やしてよいのではないだろうか。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。		3：8 8 0%以上		
		保護者や学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。		2：6 6 0%以上		
		各学年の発達段階に応じた「家庭学習スタンダード」に基づき、セレクト学習（自主学習ノート）を実施し、家庭学習の習慣化を図る。		1：6 6 0%未満		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の